

※保護者のご承諾をいただいた赤ちゃんを、
撮影・掲載しています。

あくあく育て

乳 幼 児 健 診

(平成23年1月21日=千寿苑)



「柴引」の舞。舞台では、神が舞い降りたような熱演が続きます。

地域の宝 再認識

仁瀬本神楽奉納会

1月22日、鳴り響く太鼓や笛の音がする先は、二瀬本コミュニティセンター。この日、仁瀬本神社神楽保存会による神楽奉納会が開催されました。二瀬本地区に古くから伝わる仁瀬本神社夜渡神楽。以前は座元の民家で夜を徹して舞が奉納されてきました。現在は二瀬本自治振興区の事業の一つ「奉納会」として開催されており、今回で5回目です。

午後6時、神風で幕を開けた奉納会。次々と奉納される神々しい舞に会場は徐々に熱気を帯びていきます。太鼓や笛の音に誘われるように来場者が



盛り上がりが高潮に達した「八鉢」の舞い。スクナビコナノカミというこの神は説話「一寸法師」の祖型とも言われています。必見です。

増え、いつの間にか会場はいっぱいになっていました。

約7時間にわたった奉納会の目玉は「八鉢」の舞。舞い手の熱演に会場は大きく盛り上がりました。来場者には保存会婦人が腕を振るっただこ汁やお酒などが振る舞われました。

この仁瀬本神社神楽はまさしく地域の宝。宝を守り抜くことは容易ではないかもしれませんが、この宝を地域の魅力として再認識しようとする二瀬本自治振興区の取り組みは、地域に住む誇りへとつながっていくと感じます。

